『強震データの活用に関するシンポジウム』の開催にあたって

主旨説明

[Preface]

瀬尾 和大 [Kazuoh SEO]

このシンポジウムは，1992年４月に地震災害委員会強震観測運営委員会の下に設置された強震データ小委員会の，３年間にわたる活動の一環として企画されたものである．シンポジウムの開催主旨を述べる前に，本小委員会が設置されるまでの経緯と，委員会活動の概要について若干触れておきたい．

1956年に設置された耐震連絡委員会は，建築災害調査に関する情報交換・地震災害調査報告の作成のために，各種の研究委員会を横断的に連絡する情報交流組織として，長年に亘って幅広い活動を行ってきた．また，その下部組織としての強震観測小委員会は，この間，強震観測データに関する情報の収集・整理を行い，同時に，建築会館に設置されている強震計の管理と観測データの公表も任務としてきた．1987年に発生した千葉県東方沖地震のディジタル強震データ集が1992年に刊行されたことは，まだ記憶に新しいところである．

1992年４月に学会委員会組織の一部改組が実施されたことにより，上記の耐震連絡委員会は研究委員会としての地震災害委員会に生まれ変わった．また，それに伴って設置された下部委員会は，以下の組織系統図に示す通りである．

地震災害委員会(渡部主査)┬強震観測運営委員会(大谷主査)─強震データ小委員会(瀬尾主査)┬ﾜｰｷﾝｸﾞA
├耐震連絡小委員会(南主査)　　└ﾜｰｷﾝｸﾞB
└地震防災システム検討小委員会(鏡味主査)

ここで，強震観測運営委員会と強震データ小委員会に課せられた役割は，①強震観測データの収集・整理・公表とそのための強震記録集の継続的刊行，②建築会館の強震観測ならびに観測記録と解析結果の公表である．これらの目的を遂行するために，前者は大所高所からのマネージメントを，後者は具体的な作業を分担することとなっている．

強震データ小委員会における現時点での具体的な活動内容は以下の３項目に集約される．１つは，建築会館で実施中の強震観測をサポートし，観測データの収集・整理・解析・検討を実施し，結果を公表する必要がある場合にはその資料を準備することで，この目的のためにはワーキンググループＡがさらに詳細な検討を行っている．２つ目は，強震データのデータベース構築について，学会外部の関係機関とも情報連絡を行いながら現状分析を行うことで，ワーキンググループＢがリーダーシップを発揮している．そして３つ目は，強震データ集の刊行へ向けての事前準備として，まずは実際に委員会内部で観測データの相互交換を実行することによって，強震観測の実態把握・観測点の地域分布の確認・強震観測の現状での欠陥の認識・観測する立場とデータを利用する立場との相互理解を行いながら，何よりも相互交換された強震記録を面白く使ってみることである．

今回のシンポジウムでは，上記の３つの課題に焦点を当てながら，強震データを今後とも効果的に活用してゆくために建築学会として何をどうすべきかについてのディスカッションを試みようとしている．まず，**「データベース開発および強震観測の現状」**では，国内外における強震観測の現状をレビューしつつ，将来における強震データの共同利用のあり方について考えてみたい．**「同一基礎上に設置された複数地震計の記**

東京工業大学・大学院総合理工学研究科・助教授・工博 [Assoc.Prof.,Dr.of Eng.,Tokyo Inst.Tech.]

録について」では，建築会館で観測されている地震動データに基づき，地震観測装置が具備すべき性能とその信頼性について考えてみたい．次に「**地震観測記録共同利用の試み**」では，最近，関東地方で発生した3つの興味ある地震（伊豆大島近海1990.2.20.，神奈川県西部1990.8.5.，東京湾直下1992.2.2.）に注目して，これらの観測データを共同利用することによって得られる知見を題材にした議論を行ってみたい．さらに，強震計の開発と強震観測・強震データの普及に長年に亘って取り組んでこられた田中貞二先生には，本シンポジウムにとっては願ってもない「**日本における強震計の開発と初期の強震観測**」とのテーマで，特別講演をして戴くことになっている．また，本小委員会の親委員会である強震観測運営委員会の大谷圭一主査と岐阜大学の杉戸真太先生には，夫々リーダーシップを執っておられる**科学技術庁強震観測事業推進連絡会議**と**震災予防協会強震動アレー観測記録データベース推進委員会**の活動状況についてご紹介くださる予定になっている．最後に，本シンポジウムの参加者各位にはフロアーからの活発な議論を期待している．そして，本シンポジウムで提起された課題・問題点については，下記のメンバーによる今後の委員会活動の中に反映させてゆきたいと考えている次第である．

強震データ小委員会	主査	瀬尾和大（東京工業大学・大学院総合理工学研究科）
	幹事	若松邦夫（大林組・技術研究所）
	幹事	日比野浩（大成建設・技術研究所）
		天池文男（竹中工務店・技術研究所）
		鹿嶋俊英（建設省・建築研究所）
		片岡俊一（清水建設・技術研究所）
		木村正彦（東急建設・技術研究所）
		工藤一嘉（東京大学・地震研究所）
		小林孝至（西松建設・技術研究所）
		斉藤芳人（前田建設工業・技術研究所）
		境茂樹（間組・技術研究所）
		座間信作（自治省消防庁・消防研究所）
		佐間野隆憲（日本物理探鉱・技術部）
		田村保（五洋建設・技術研究所）
		高崎芳夫（フジタ・技術研究所）
		高橋克也（鹿島建設・技術研究所）
		土肥博（ＮＴＴファシリティーズ・研究開発部）
		飛田潤（東北大学・工学部）
		長屋雅文（佐藤工業・中央技術研究所）
		芳賀勇治（熊谷組・技術研究所）
		堀直人（国士館大学・工学部）
		三浦篤（日本国土開発・技術研究所）
		村上勝英（日建設計・東京構造事務所）
		安井健治（奥村組・筑波研究所）
		山田真（早稲田大学・理工学研究所）
		山村一繁（東京都立大学・工学部）
		渡壁守正（戸田建設・技術研究所）
ワーキンググループ－A		日比野（世話役），小林，斉藤，土肥
ワーキンググループ－B		片岡（世話役），佐間野，鹿嶋，高橋，長屋